

# 東日本大震災 被災地の復旧・復興に全力!

## 女性国会議員の手記



### 竹谷とし子参院議員

東日本大震災の被災地復旧・復興のため、懸命に働き、汗を流す公明党議員。被災地域の再建に駆ける竹谷とし子参院議員の手記を紹介します。



被災した住民から要望、声を聞く竹谷とし子議員(右から3人目) 11月18日 宮城・南三陸町

被災した住民から要望、声を聞く竹谷とし子議員(右から3人目) 11月18日 宮城・南三陸町



壊滅的被害を受けた港の復旧について要望を聞く竹谷議員(右から2人目) 11月18日 宮城・南三陸町

をもらって、当たり前だと思っている。家をなくした自分たちのことなんか分るはずがない」との憤りの声も伺いました。

津波直後、高台の生活センターに220人が避難。食べるものがなく、津波で田んぼに流れ出た米を土の中からかき集めて、それを洗っておかゆにして皆で食べたこと、数日後に上空をヘリが飛ぶのを見て、自分たちで

## どこまでも被災者に寄り添い、課題解決へ働き抜く

公明党の震災対策本部に出席して下さった陸前高田市の戸羽太市長は「最初に駆け付けてくれたのが公明党だった」と公明党を称賛して下さいましたが、被災地を歩く中で、「公明党のネットワークのおかげで助かった」というお声をあちこちで聞きました。

私は今、毎週のように被災地を訪れています。それは、「被災者に寄り添う」といっても、家も道も、緑豊かな木々も、全てが根こそぎ流された中で、力を振り絞って、復興に向けて立ち上がるうとされている被災者の皆さまの声に、現地で直接耳を傾けなければ、何も分からない、何も進まないと思うからです。

6月19日には、炊き出しボランティアとして宮城県女川町を訪問しました。また、7月18日には、仙台から車で2時間半、

また、「役人も議員も給料をもらい、ボーナスが立ちふさがってきま

政に仕事が集まり、マンパワーが不足しているため、全国をはじめ世界各地から寄せられた支援物資が、いまだに、あちこちの倉庫に山積みになれたままで、必要とする方々に届いていない実態があります。行政の力だけでは限界があります。その真心の支援物資がスムーズに必要なところに届くシステムづくりを、ボランティアの方々と協力しながら構築できるよう、力を尽くしているところで